

代表的な検査項目の説明 ①

* 基準値は当院のものであり、測定した医療機関によって若干異なる場合があります

* 検査結果の詳細や、ここに掲載された項目以外のものにつきましては、直接担当医にお尋ね下さい

検査項目	基準値	説明
尿検査		
尿糖	陰性	空腹時に陽性の場合には糖尿病が疑われますが、体質的に尿糖が出るときがあります。また、尿に糖を排出させる薬を服用している場合も陽性となります。
尿蛋白	陰性	腎臓や尿管の障害で陽性になりますが、激しい運動や疲労でも軽度の陽性になることがあります。
尿潜血	陰性	腎臓・尿管・膀胱の炎症や結石、腫瘍の発見の手がかりとして用いられます。
便検査		
便潜血	陰性	消化管からの出血を調べます。大腸がんの早期発見が主な目的です。
生化学検査（肝・胆・膵機能検査）		
総蛋白（TP）	6.6 ～ 8.1 g/dL	血液中のたんぱくの総量を表します。数値が低い場合は栄養障害、ネフローゼ症候群、がんなどが疑われます。また、高い場合は、慢性炎症、脱水、多発性骨髄腫が疑われます。
アルブミン（ALB）	4.1 ～ 5.1 g/dL	アルブミンは肝臓で合成されます。肝臓障害、栄養不足、ネフローゼ症候群などで減少します。
AST（GOT）	13 ～ 30 U/L	AST（GOT）は、心臓、筋肉、肝臓に多く存在する酵素です。ALT（GPT）は比較的に肝臓に多く存在する酵素です。数値が高い場合は急性肝炎、慢性肝炎、脂肪肝、肝臓がん、アルコール性肝炎などが疑われます。
ALT（GPT）	男性：10 ～ 42 U/L 女性：7 ～ 23 U/L	
LD（LDH）	124 ～ 222 U/L	肝臓、心臓、腎臓、肺などに広く分布している酵素です。各臓器の細胞が何らかの原因で障害を受けると、値が上昇します。
アルカリホスファターゼ（ALP）	38 ～ 113 U/L	数値が高いと、胆道系の病気のほか、急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝臓がん、骨の病気などが疑われます。
γ-GT（γ-GTP）	男性：13 ～ 64 U/L 女性：9 ～ 32 U/L	γ-GTPは、肝臓や胆道に異常があると血液中の数値が上昇します。数値が高い場合は、アルコール性肝障害、慢性肝炎、胆汁うっ滞、薬剤性肝障害が疑われます。
総ビリルビン（T-Bil）	0.4 ～ 1.5 mg/dL	ヘモグロビンの分解産物。肝疾患の診断、黄疸の鑑別に有用です。
コリンエステラーゼ（ChE）	男性：240 ～ 486 U/L 女性：201 ～ 421 U/L	脂肪肝、肥満などで上昇を示します。また、肝硬変や低栄養で低下します。
アミラーゼ（AMY）	44 ～ 132 U/L	膵臓や唾液腺より分泌される消化酵素です。急性膵炎や耳下腺炎で上昇します。
生化学検査（腎機能検査）		
尿素窒素（BUN）	8.0 ～ 20.0 mg/dL	腎機能の指標として広く利用され、腎不全、熱傷、消化管出血や高蛋白食摂取で上昇します。
クレアチニン（CRE）	男性：0.65 ～ 1.07 mg/dL 女性：0.46 ～ 0.79 mg/dL	腎臓でろ過されて尿中に排泄されます。数値が高いと、腎臓の機能が低下していることを意味します。クレアチニン値を基に算出されたeGFRは、ろ過の効率をあらわします。
尿酸（UA）	男性：3.7 ～ 7.8 mg/dL 女性：2.6 ～ 5.5 mg/dL	高尿酸血症では痛風発作と呼ばれる関節痛や尿路結石を起こします。
生化学検査（心機能検査）		
CK-MB	5.0 ng/mL 以下	心筋梗塞で高い値を示します。
高感度トトロニンI	26.8 pg/mL 未満	心筋梗塞で高い値を示します。
BNP	18.4 pg/mL 以下	心臓の心室より分泌されるホルモンです。心不全で高い値を示します。

代表的な検査項目の説明 ②

* 基準値は当院のものであり、測定した医療機関によって若干異なる場合があります

* 検査結果の詳細や、ここに掲載された項目以外のものにつきましては、直接担当医にお尋ね下さい

検査項目	基準値	説明
糖代謝検査		
血糖	73 ~ 109 mg/dL	数値により、ブドウ糖がエネルギー源として適切に利用されているかがわかります。数値が高い場合は、糖尿病、膵臓癌、ホルモン異常が疑われます。
ヘモグロビンA1c (HbA1c)	4.9 ~ 6.0 % (NGSP)	過去1~2ヶ月の血糖の平均的な状態を反映するため、糖尿病のコントロールの状態がわかります。
脂質検査		
総コレステロール	142 ~ 248 mg/dL	数値が高いと、動脈硬化、脂質代謝異常などが疑われます。低い場合は、栄養吸収障害、低βリポたんぱく血症などが疑われます。
HDL-コレステロール (HDL-C)	男性: 38 ~ 90 mg/dL 女性: 48 ~ 103 mg/dL	善玉コレステロールと呼ばれるものです。数値が低いと、動脈硬化が進行しやすくなります。
LDL-コレステロール (LDL-C)	65 ~ 163 mg/dL	悪玉コレステロールとよばれるものです。多すぎると血管壁に蓄積して動脈硬化を進行させ、心筋梗塞や脳梗塞を起こす危険性を高めます。
中性脂肪 (TG)	男性: 40 ~ 234 mg/dL 女性: 30 ~ 117 mg/dL	数値が高いと動脈硬化を進行させます。低い場合は、低βリポたんぱく血症、低栄養などが疑われます。
末梢血液検査		
白血球数 (WBC)	3.3 ~ 8.6 ($\times 10^3/\mu\text{L}$)	白血球は細菌などから体を守る働きをしています。数値が高い場合は細菌感染症にかかっているか、炎症、腫瘍の存在が疑われます。
赤血球数 (RBC)	男性: 4.35 ~ 5.55 ($\times 10^6/\mu\text{L}$) 女性: 3.86 ~ 4.92 ($\times 10^6/\mu\text{L}$)	赤血球は肺で取り入れた酸素を全身に運び、不要となった二酸化炭素を回収して肺へ送る役目を担っています。
ヘモグロビン (Hb)	男性: 13.7 ~ 16.8 (g/dL) 女性: 11.6 ~ 14.8 (g/dL)	血色素とは赤血球に含まれるヘムたんぱく質で、酸素の運搬役を果たします。減少している場合、貧血などが疑われます。
ヘマトクリット (Hct)	男性: 40.7 ~ 50.1 (%) 女性: 35.1 ~ 44.4 (%)	血液全体に占める赤血球の割合を示します。
血小板数 (PLT)	158 ~ 348 ($\times 10^3/\mu\text{L}$)	血小板は、出血したとき、その部分に付着して出血を止める役割を果たしています。様々な疾患で増減し、減少すると出血しやすくなります。
免疫・感染症検査		
CRP	0.14 mg/dL 未満	細菌・ウイルス感染、がんなどによる組織の傷害、免疫反応障害などによる炎症が発生したときなどに血液中に増加する急性反応物質です。
HBs抗原	陰性	B型肝炎ウイルス感染の有無を調べます。陽性の場合、現在感染している可能性があります。
HCV抗体	陰性	C型肝炎ウイルス感染の有無を調べます。陽性の場合、現在感染しているか、あるいは過去に感染したことを意味します。
腫瘍マーカー検査		
PSA	4.0 ng/mL 以下	前立腺組織に存在する物質です。前立腺がんの発見に役立ちます。前立腺肥大や前立腺炎でも高値となります。
AFP	13.4 ng/mL 以下	主に肝臓がん、ほかに肝硬変、慢性活動性肝炎などでも上昇します。
CEA	5.0 ng/mL 以下	主に胃や大腸などの消化器がん、ほかに消化器以外のがんや喫煙でも上昇します。
CA19-9	37 U/mL 以下	主に膵臓がんや胆のう・胆管がん、ほかに肝硬変症、胆石、糖尿病、慢性肝炎などでも上昇します。
CA15-3	31 U/mL 以下	主に乳がん、ほかに卵巣がん、子宮がん、肺がんでも上昇します。
SCC	1.5 ng/mL 以下	食道がん、子宮頸がん、肺がんなどの扁平上皮がんで上昇します。